



しずおか 県民児協だより

第11号

平成18年2月1日発行

〔題字：静岡県知事 石川嘉延 書〕

編集発行 / 静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内
電話054-254-5244 FAX054-251-7508

『合併にあたって』



(活動の様子)

蒲原町民生委員児童委員協議会

会長 永井 容子

静岡市と蒲原町の市町村合併に伴い、蒲原町民生委員児童委員協議会も静岡市民生委員協議会に加わることとなり、地域としては、清水区の民児協に所属することとなりました。

過日、清水区民児協の会長会議に出席し、また、清水有度西地区の定例会にも数人で参加し、勉強する機会を得ました。どちらの会議にも快く受け入れてくださり、ありがとうございました。

蒲原町民児協は、委員数男性13名、女性20名の合計33名(主任児童委員を含む)の組織です。一つの町の小さな協議会です。市組織の活動に対しては、第一に圧倒感を憶えました。市組織では、専門的、広範囲での活動をしていること、社協や関係団体との連携など、様々な分野での活動があることを改めて知りました。私たちは、あらゆる場面において町内で活動することに慣れ、委員同士の交流も深く、互いに協力し合い、地域ニーズもある中で活動してきました。

民児協活動の基本は、住民の立場に立つて、地域福祉の推進を図ることであると認識していますし、活動する目的も民生委員みんな同じであると思います。

蒲原町民児協の事務的業務は、蒲原町役場ですべて行っていたのですが、今後はどのようなのか、蒲原支所の人員配置によるとのこと、少々、不安に思っております。

皆様からの御指導・御協力いただくようお願い申し上げます。今後、より活発な民児協活動を続けていこうと考えております。

**平成17年度(第74回)
全国民生委員児童委員大会が静岡県で開催されました**

平成17年11月9日(水)~10日(木)、富士山を望むすばらしい秋空の下、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」をメイン会場に、平成17年度(第74回)全国民生委員児童委員大会が開催されました。県内外の民生委員児童委員の皆様約4,000名が静岡県に集い、成功裡に終了しました。



式典



静岡県民生委員児童委員協議会
天野 玄会長から開会挨拶が
ありました。



民生委員児童委員信条
静岡県民生委員児童委員協議会井堀てる代副会長が
唱和の音頭をとりました。

特別講義



講義題
講師

「いのちの支えあい」
聖路加国際病院理事長
日野原 重明 氏

「民生委員活動で、ますます顔も心も輝いた人生を送ってください」
と日野原先生から励ましのお言葉がありました。

全国民生委員児童委員連合会会長表彰代表授与 (敬称略)



優良民生委員児童委員協議会表彰
佐久間町民生委員・児童委員協議会
会長 大鷲 利治



永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰
森町民生委員児童委員協議会
会長 大場 義一



永年勤続民生委員・児童委員表彰
沼津市民生委員児童委員協議会
富山 公恵



永年勤続民生委員・児童委員功労表彰
群馬県館林市民生委員児童委員協議会
会長 樽見 千代子

抛金贈呈



全国大会に参加された皆様からの抛金は、
全国民生委員児童委員連合会大澤義行会長か
ら、静岡県民生委員児童委員協議会濱崎岩雄
副会長に手渡されました。

活動交流集会

16テーマの活動交流集会が開催されました。
活発に意見交換をし、専門技術の共有や交流を深めました。



当日の運営以外にも、各活動交流集会の
企画、準備、前日の最終打ち合わせ会
などに全力を注ぎました。

静岡県ならではのおもてなし

静岡市民生委員児童委員協議会の皆様には、約600名の協力員、約120名の合唱団として、2日間にわたり大会運営に御協力いただきました。



エントランス入口



受付



大ホール入口

「ようこそ静岡へ」と歓迎の気持ちを込めて案内や受付をしました。



「ありがとうございました」とお見送り。



民生委員の歌斉唱では、会場の雰囲気
大いに盛り上げました。

第1日目は、グランシップに「静岡茶のおもてなしコーナー」を設けました。



NPO法人日本茶インストラクター
協会静岡県支部の皆様による本格的
なお手前で、静岡茶のおいしさを味
わいました。



セルフ方式の
茶器4台で、
冷たいお茶を
提供しました。

大会宣言

式典において、全国民生委員児童委員連合会副会長である天野会長が大会宣言を行いました。

次のとおり「大会宣言」が採択されましたので、御報告いたします。

近年、インターネットや携帯電話の普及などに代表されるIT（インフォメーションテクノロジー）の進展により、人々はかつて無いほどに時間と場所を選ばずに、多くの人々と意思疎通できるようになりました。

しかし、こうした科学技術の進歩による人と人とのコミュニケーションの便利さを得たにもかかわらず、それとは相反して、「社会的孤立」が現代の日本社会の抱える大きな問題となっています。

連日のようにテレビ・新聞などマスコミによって報じられる児童や高齢者への虐待事件や認知症高齢者などに対する住宅リフォーム等の悪質商法事件の問題も、地域の中で孤立した状況の下で発生しています。かつてのような困ったときに、頼り頼られ、お互いがお互いを支え助け合う住民同士のつながりが希薄化してきています。

また一方、ここ最近日本では大地震や水害など、多くの自然災害が発生しています。災害発生時には、一人暮らし高齢者や障がいのある方など、自力で避難することが困難な方々についての的確な情報を把握していることが求められます。しかし、地域のつながりが失われつつある現在では、こうしたことも難しくなっています。

こうした中、人権を守り、尊い命を救うために、私たち民生委員・児童委員は民生委員児童委員信条に則り、安全で安心な地域社会づくりに貢献することが求められています。

具体的には、不安や心配を抱えている地域住民への日々の相談・支援活動や、「ふれあいいいきサロン」や「子育てサロン」活動などの人と人とのふれあいの機会を通じて作られる住民同士のつながりや信頼関係を積み重ねていくことが必要です。

私たち民生委員・児童委員は、これからも、地域住民の立場に立って相談・支援活動を展開し、地域住民の孤立を防ぎ、安心で安全なまちづくりをすすめていくため、次のとおり宣言します。

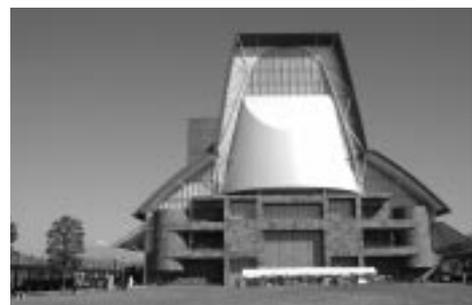
- 一、地域住民同士のつながりをつくり、「社会的孤立」を防ぎ、誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。
- 一、日ごろの相談・支援活動を通じて、災害時、高齢者など支援を必要とする人々を見守る地域のネットワーク作りに取り組みます。
- 一、子育てサロン活動などを通じて、子育て家庭を支援し、親子の孤立を防ぎ、育児不安のない、安心して子育てができる地域づくりに取り組みます。
- 一、基本的人権についての理解を深め、個人情報の取り扱い方など常に自らの活動を点検し、住民との信頼関係に基づく活動をすすめます。

平成17年11月9日

第74回 全国民生委員児童委員大会
(開催地 静岡県)



会場の様子



グランシップ

ひろば

「向こう三軒両隣」



伊豆市民生委員児童委員協議会

野田 泉

地方分権が叫ばれる中で、そのひずみが福祉の面にも波及してきました。各自自治体における財政難から、しわ寄せは弱い部分にも容赦なく降りかかっています。非常に残念であります。十月の定例会長会で、「高齢化社会の中で、お金のかららない県民・市町村全体で取り組める事業はないだろうか」と話題になりました。

今、小中学校では挨拶運動の輪が広がっております。コミュニケーション（共同体、地域社会）の最小単位とは何だろうと考えました。自分の家を中心に、古い言葉でいうと「向こう三軒両隣」ということになるでしょうか。核家族が進み、忘れ去られているような言葉です。一人暮らし世帯、高齢世帯が急速に増えております。普段お付き合いのある世帯は別として、お付き合いのない世帯が増えております。民生委員児童委員の力でなく、自治体全体の隣組の見守りの中で、「向こう三軒両隣」の安否確認をする時代きたのかなと考えさせられます。高齢者の孤独死をなくすためにも、「おはよう、こんにちは」の挨拶は、明るい地域社会を再生する言葉ではないでしょうか。阪神淡路大震災の時にも「向こう三軒両隣」のお付き合いがあったが故に助けられた人がいたと伺っております。お金がなくてもでき、工夫すれば意識改革ひとつで地域共同体は大きく変わるはずですよ。

民生委員をやった良かった



静岡市民生委員児童委員協議会

八木 弘子

あつ、来た来た！今朝も元気な子どもたちの声が聞こえてきました。「おはよう」「おはようございます」「ペコリと頭を下げかわいらしさ。あつちへつつかり、こつちへつつかり、昔の私たちの登校風景にそっくりなその姿をほほえみながら見送ります。

「こんにちは、この間はお世話になりました」「こちらこそ、ありがとうございませう」「風邪は治ったの？よかったわね、お大事に」などなど、いろいろな方と顔見知りとなり、挨拶ができるなんと心休まるうれしいことでしょうか。

子どもが成長し、親のことを心配してくれる年齢となりますと、親がお付き合いする相手もだんだん狭まり、やれやれというよりも淋しさを感じていました。今はこうしているいる年代の方々とお話しすることができ、様々なことを幅広く教わり、気づかせていただき、本当に良かったと思っております。

大変だなと思うことも多々ありますが、それ以上に安らぎを与えられました。これも民生委員をやらせていただいたからこそ。ありがたいです。人とのつながりは、宝物ですね！

地域は家族



湖西市民生委員児童委員協議会

伴 千鶴子

100戸に満たない小さな地区に生まれました。地域の多くの人たちに育ててもらいました。やがて、大企業の進出やアパートの増加により、今や800余の世帯となりました。しかし、高齢者は昔からの顔馴染みの人が多く、感謝の気持ちで民生委員活動をしています。

70歳以上の一人暮らし、80歳以上の高齢者対象の「ふれあいいきいきサロン」では、多くの方々がたいへん楽しみに待っていてくれます。その中でも地区内の保育園児との交流は、園児も高齢者も、核家族では味わえない楽しさを格別を感じるようです。

高齢者の中には、幸せそうに見えても、実は家族に相手になってももらえない淋しさを訴える人もいます。一方、「お世話になつてばかりでは申し訳ない」と進んで手伝つてくださる方もおり、助け合いのできるこのすばらしさを感じます。

そのほか、地区中老会の皆さんの厚意による一人暮らし高齢者宅（希望者）の家具転倒防止の固定作業、地区自主防災訓練での中学生による一人暮らし老人宅への訪問、安否確認は、高齢者にたいへん喜ばれています。

こうして地域ぐるみで役割分担し、誰もが安心、安全に暮らせる住みよい地域となるよう、皆さんとともに努めて参りたいと思っております。

平成17年度 叙勲・大会等表彰の紹介

叙勲

瑞宝単光章

(平成17年4月29日付)

丸山 ちよ子 (焼津市)

森山 八十子 (静岡市)

瑞宝単光章

(平成17年11月3日付)

風間 克巳 (三島市)

褒章

藍綬褒章

(平成17年11月3日付)

浅原 健次 (島田市)

厚生労働大臣表彰

(平成17年11月4日付)

若松 千鶴子 (熱海市)

源平 佳見 (静岡市)

石川 恒子 (静岡町)

静岡県知事表彰

(1) 静岡県表彰条例

(平成17年11月3日付)

川口 武 (静岡市)

黒田 巖 (伊東市)

嶋 幸子 (富士市)

新村 喜久男 (焼津市)

鈴木 美都恵 (熱海市)

竹田 美登利 (浜松市)

奈良橋 福子 (沼津市)

宮田 和子 (沼津市)

山本 亘一 (川根本町)

(2) 静岡県健康福祉大会

(平成17年11月30日付)

丸茂 勝 (伊東市)

佐藤 勇 (裾野市)

三澤 慶子 (富士市)

富益 淳子 (静岡市)

伊賀 ひで子 (浜松市)

篠田 天秀 (富士川町)

全国社会福祉協議会会長表彰

(平成17年11月4日付)

永井 容子 (蒲原町)

小澤 幸弘 (島田市)

杉本 呂久 (藤枝市)

高田 敏之 (三島市)

鈴木 雅子 (浜松市)

鈴木 幸男 (浜松市)

森永 好子 (川根本町)

全国民生委員児童委員連合会会長表彰

(平成17年11月9日付)

(1) 優良民生委員児童委員協議会表彰

佐久間町民生委員・児童委員協議会

浜松市三ヶ日地区民生委員児童委員協議会

(2) 永年勤続単位民生委員児童委員協議会会長表彰

大場 義一 (森町)

(3) 永年勤続民生委員・児童委員表彰

富山 公恵 (沼津市)

伊藤 政象 (浜松市)

事務局からのお知らせ

今後の予定

平成18年度総会

6月7日(グランシップ会議ホール風・静岡市)

編集後記

「この出会は二度とないと思えば、その出合いを大切に心からもてなしたい。同じ人と再び会えたとしても、同じ関係、同じ心境であることなどないのですから」

はじめて本県で開催されました全国民生委員児童委員大会。秋晴れの好天と冠雪映える富士山とともに、「一期一会」のおもてなしができたのではないのでしょうか。

予期しなかった全国大会の招致で、短期間での準備を余儀なくされ、一抹の不安を抱きながらの大会開催でしたが、県下全委員の後押しと関係者の御尽力により、成功裡に終了でき、ほっとしています。なかんずく静岡市民児協の皆様「おもてなし」の御尽力には、心からお礼を申し上げる次第です。

本号は、全国大会の特集号といたしました。詳細については報告書の後日、皆様のお手元にお届けしますので、御覧いただき、今後とも、御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

新任の皆様が二年目を迎え、活動に一層、御健闘と存じますが、健康にも十分に御留意され、御活躍いただくようお願い申し上げます。

(大)